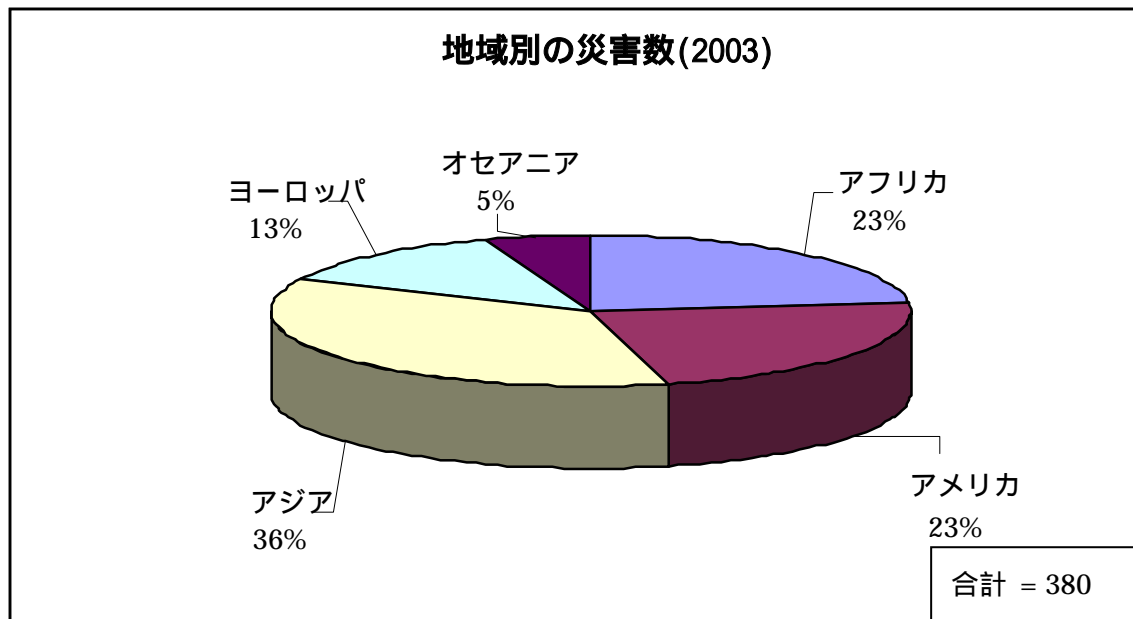


第三章：地域別にみる自然災害の特性

3.1 世界で発生した自然災害の地域別割合

2003年に発生した自然災害の多くは、アジア地域で起こったもので、全体の36%（前年より増加）を占め、続いてアフリカ（23%）、アメリカ（23%）、ヨーロッパ（13%）と続く。オセアニア地域は最も少なく、全体の5%を占めるにとどまっている。図23は、この統計をわかりやすく分類表示したものである。

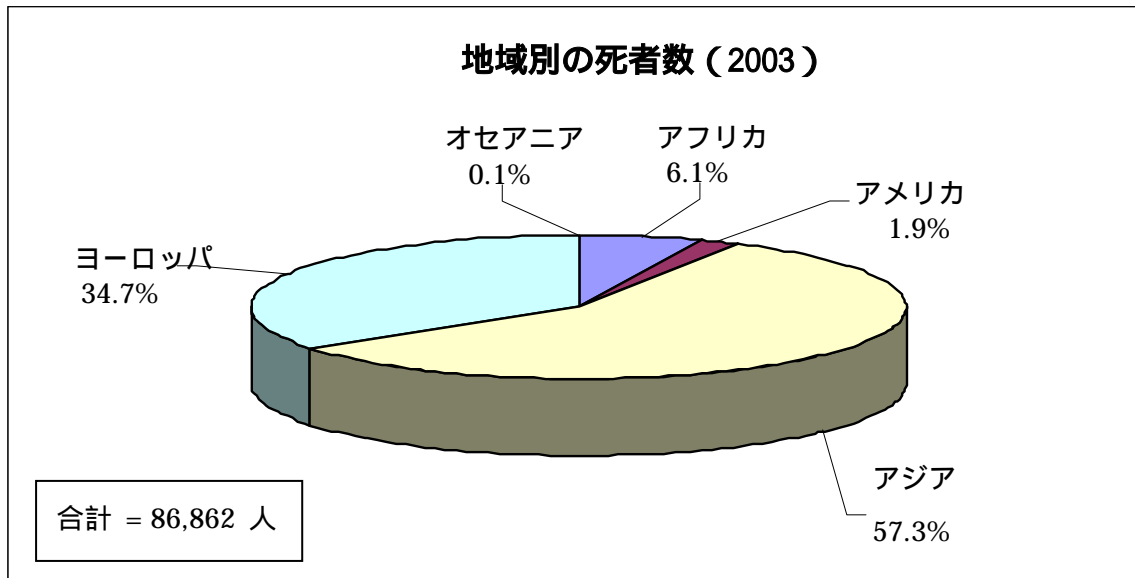
図 23



出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー）2003年

図24によれば、2003年の自然災害による世界全体の死者数のうち、57%をアジア地域が占めて、前年の78%より減少している。注目すべきはヨーロッパで、その割合は35%にも達し、前年の2%から大幅に増加している。これは、2003年にヨーロッパを襲った熱波が原因と考えられる。アフリカは前年より減少し、その他の地域は非常に小さい数値しか記録されていない。

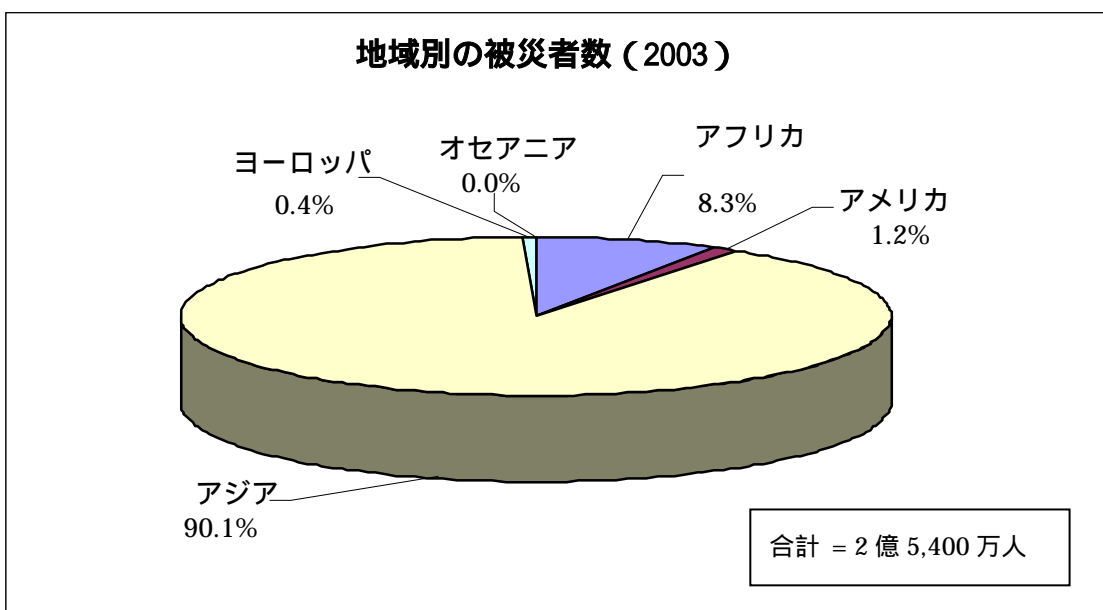
図 24



出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT (ルーベンカトリック大学・ベルギー) 2003 年

図 25 が示すように、アジア地域における自然災害による被災者数は、前年 (94%) より減少したにもかかわらず約 90%を記録し、最も高い数値となっている。このことから、明らかにこの地域が災害に対して脆弱な地域であるといえる。

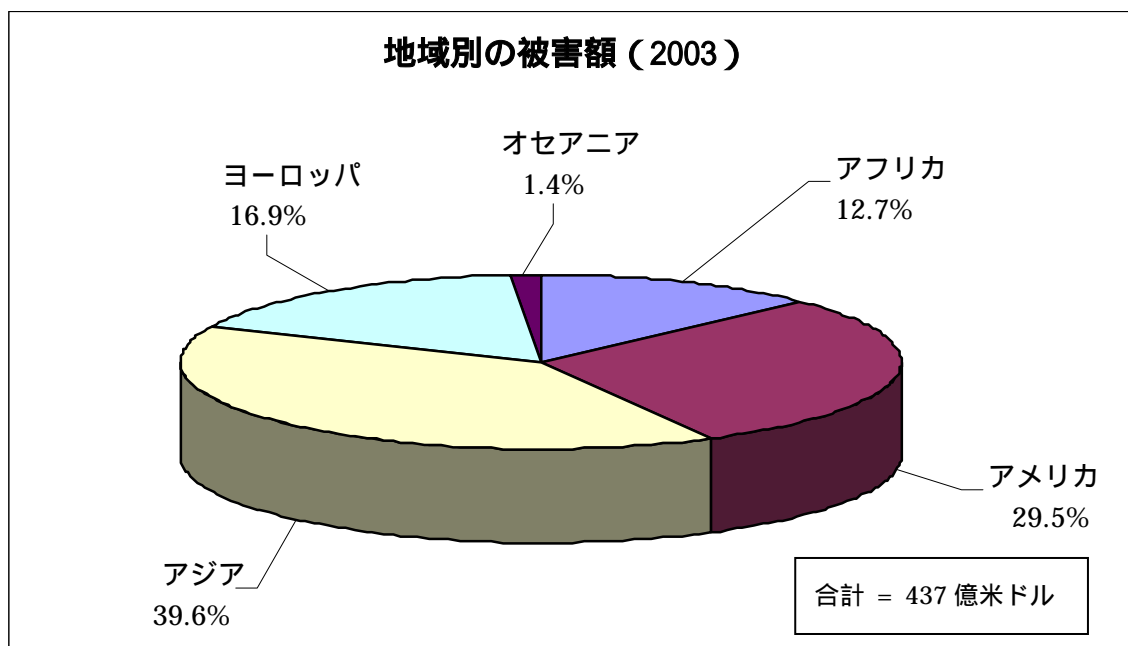
図 25



出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT (ルーベンカトリック大学・ベルギー) 2003 年

図 26 を前述の図や昨年度の数値と照らし合わせると、アジア地域は、2003 年に発生した自然災害によってもたらされた経済被害全体の三分の一以上を占めている。この原因としては、韓国を襲った台風マエミや、イランで発生したバム地震が挙げられる。これに、アメリカの 30%、ヨーロッパの 17%が続いている。これは、両地域の社会経済基盤が大きいため、災害発生数に対して被害額が大きくなっているためである。その他の地域を見ると、あまり目立った経済的被害は記録されていない。全体の被害額としては、昨年の 250 億米ドルから、437 億米ドルへと増加し、地域開発への大きな阻害となっている。

図 26



出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT (ルーベンカトリック大学・ベルギー) 2003 年

これまで見てきたとおり、アジア地域の災害に対する脆弱さは、地球規模での持続可能な開発という点から、無視できない存在となっている。